

株式会社フリープラス

2018年3月22日

資料4



第9回 スーパー・メガリージョン構想検討会

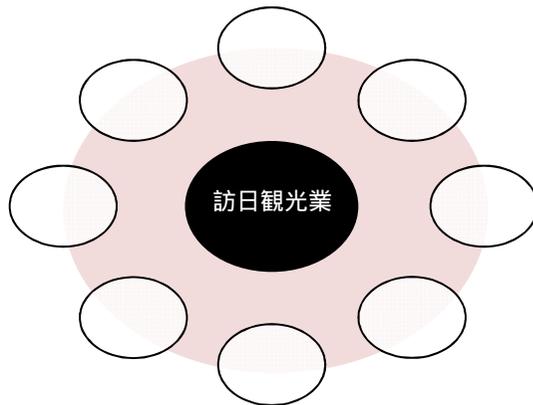
発表用資料

## 私達の理念

世界でもっとも素敵なメンバーが、世界中の素敵なお客様に、人生に残る思い出をプレゼントする

## 私達の使命

日本の観光立国を成し遂げ、日本のファンを世界に広げ、日本の元気の原因となる



訪日観光市場からは、ブレない。

訪日観光関連事業を通じて、理念と使命の追求。

## 会社概要

2018年2月現在

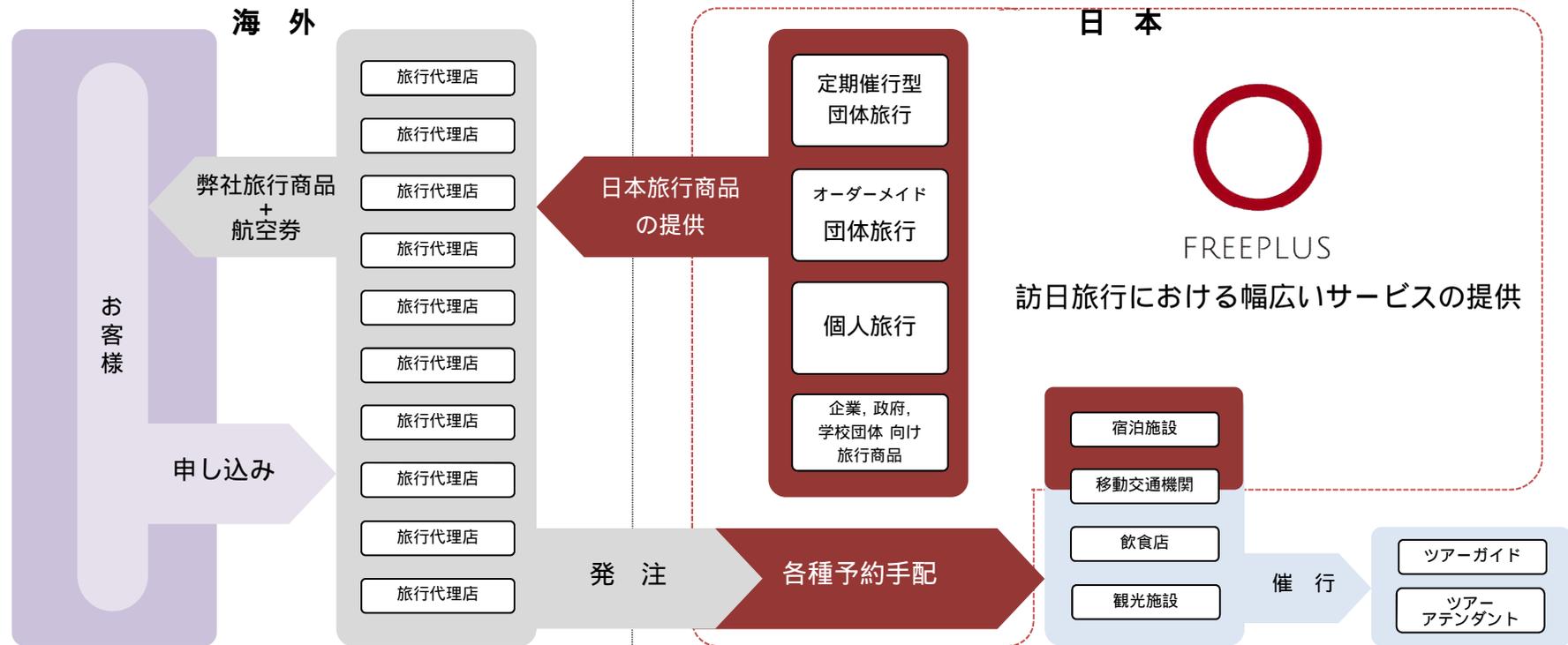
社名	株式会社フリープラス (FREEPLUS Inc.)
所在地	大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 29F
設立	2007年6月8日 (12月決算)
役員構成	代表取締役社長 須田 健太郎 取締役 小西 宏明 取締役 三田 浩騎 取締役 神田 英富 監査役 (社外) 松本 佳之
資本金	715,023,092円 (資本準備金等 含む)
従業員数	139名 (正社員108名, 契約社員2名, アルバイト29名)
拠点	北海道支社
事業内容	訪日旅行事業、ホテルマネジメント事業、観光立国推進事業 等
加盟団体	一般社団法人 アジアインバウンド観光振興会 (AISO)

# 会社概要 - 訪日旅行事業

外国人向け訪日旅行の企画・旅行手配（ランドオペレーター）に特化している旅行事業

海外の旅行代理店に対してサービスを提供（B to B）。

取り扱いの70%が団体旅行, 10%が個人旅行, 20%が企業・政府・学校向け。

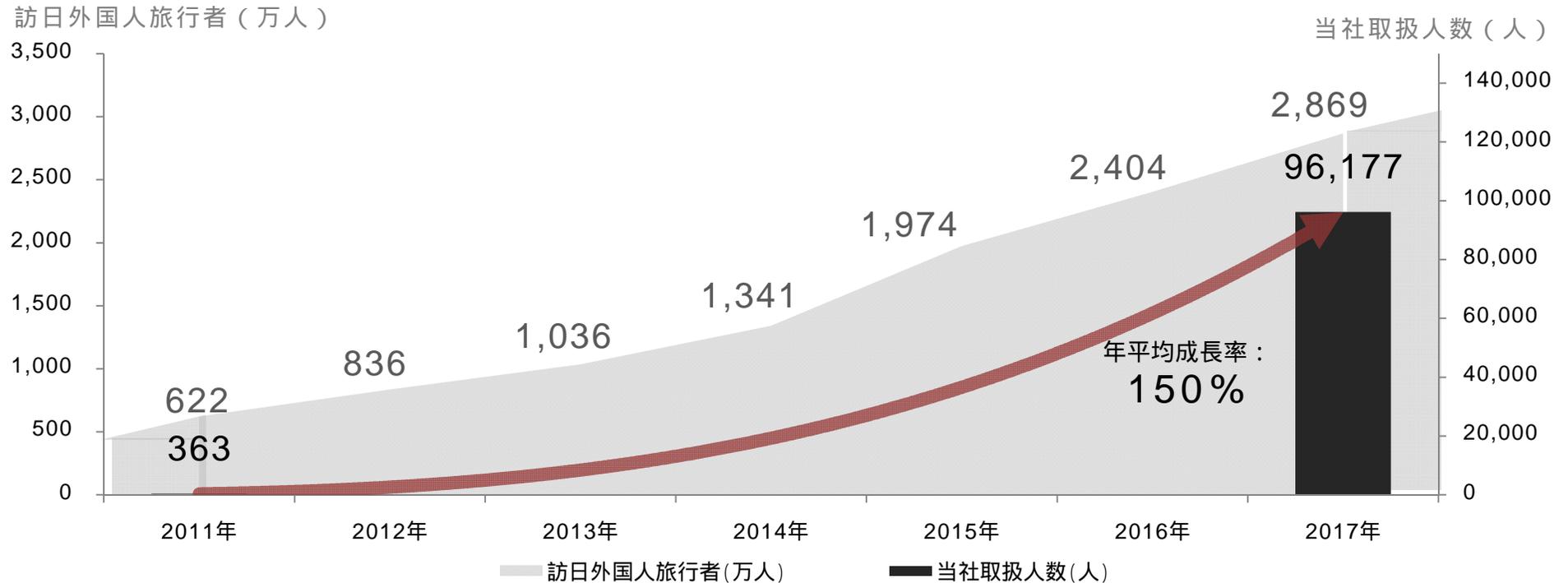


## 会社概要 - 訪日旅行事業

32カ国、787社の取引先から累計38万人の訪日外国人客の受け入れ実績

主要取引国（10カ国）

中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、インド



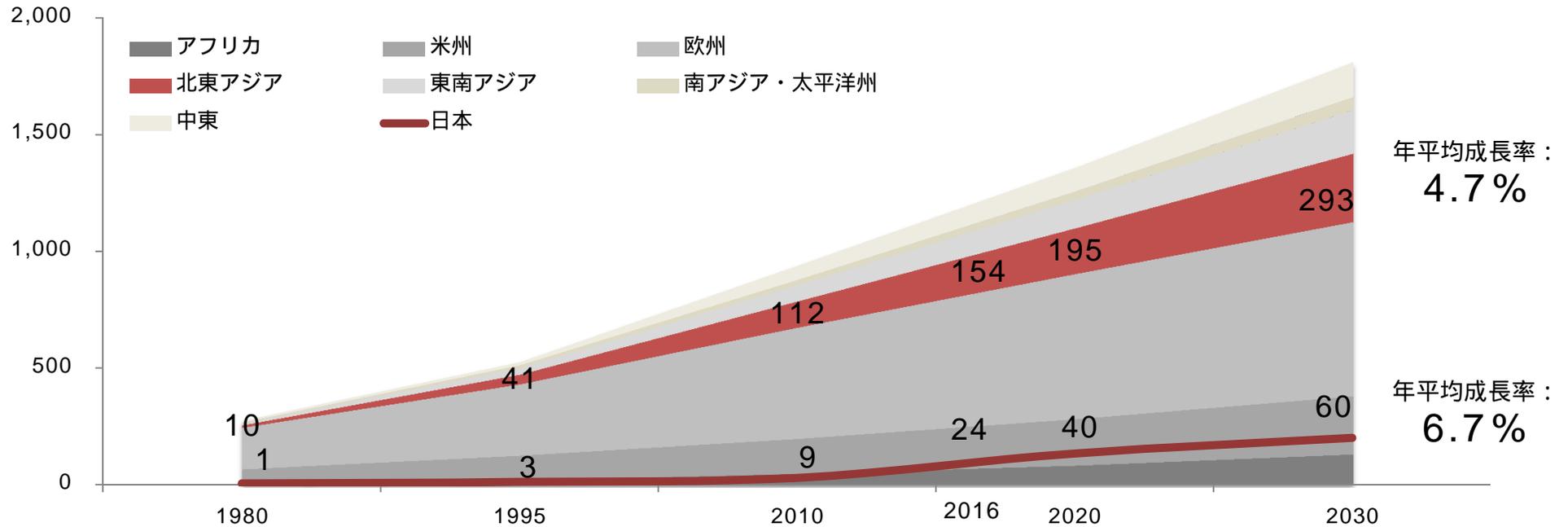
Copyright © 2018 FREEPLUS Inc. All Rights Reserved.

出典：日本政府観光局

## 事業環境 – 世界の海外旅行者

世界の海外旅行者数は経済成長と高い相関を示し、各国のGDPの成長とともに拡大する見込み。訪日外国人旅行者も、北東アジアへの旅行者を取り込み、拡大を狙う。

海外旅行者および訪日外国人旅行者（百万人）

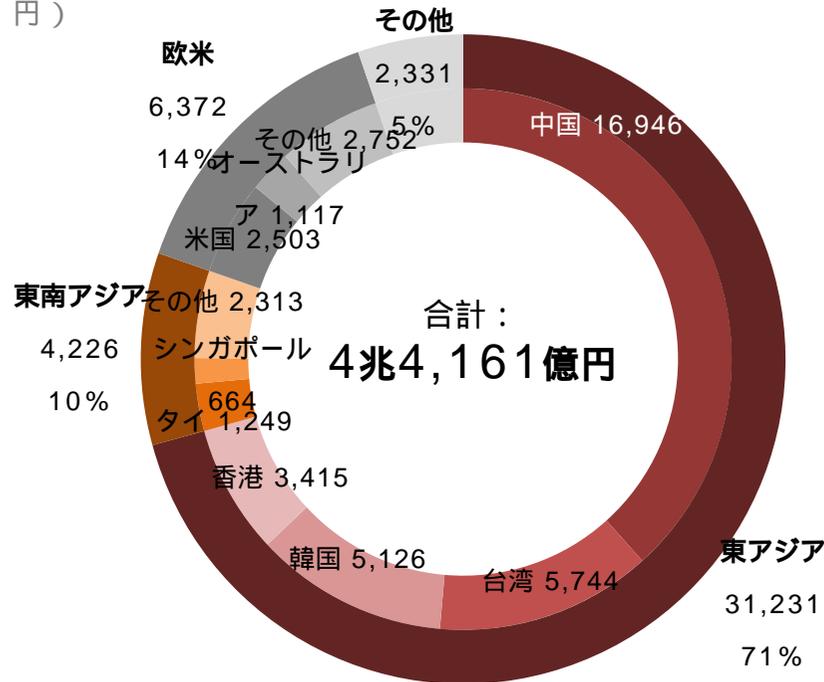


出典：国連世界観光機関（UNWTO）  
および日本政府観光局（JNTO）

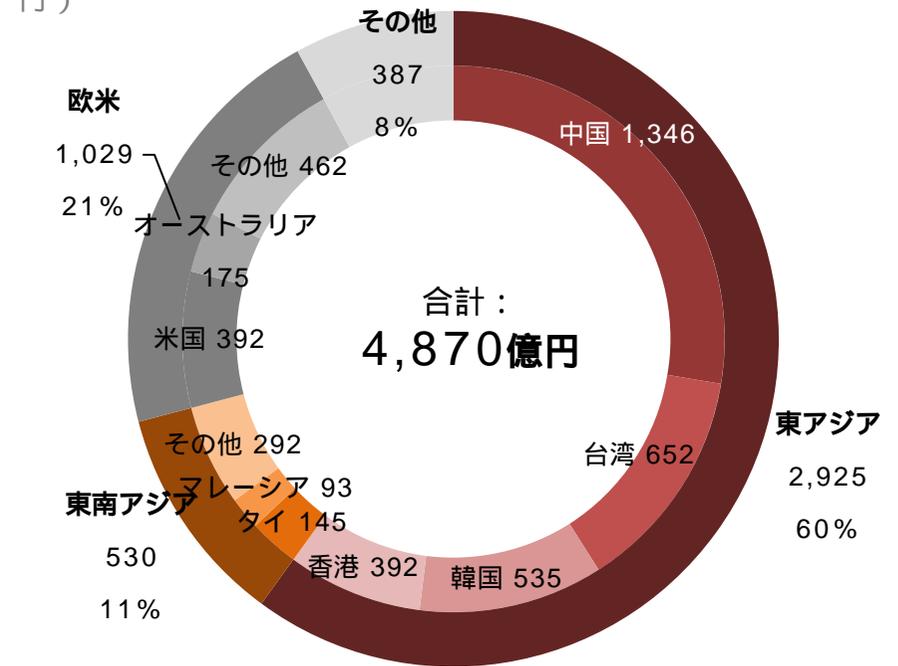
## 事業環境 - 訪日旅行業界

2017年の訪日外客数は2,869万人（前年比19.3%増加）となり、中国から735万人、韓国から714万人、台湾から456万人となり東アジアが全体の74.2%を占めている。

平成29年 訪日旅行消費額（億円）



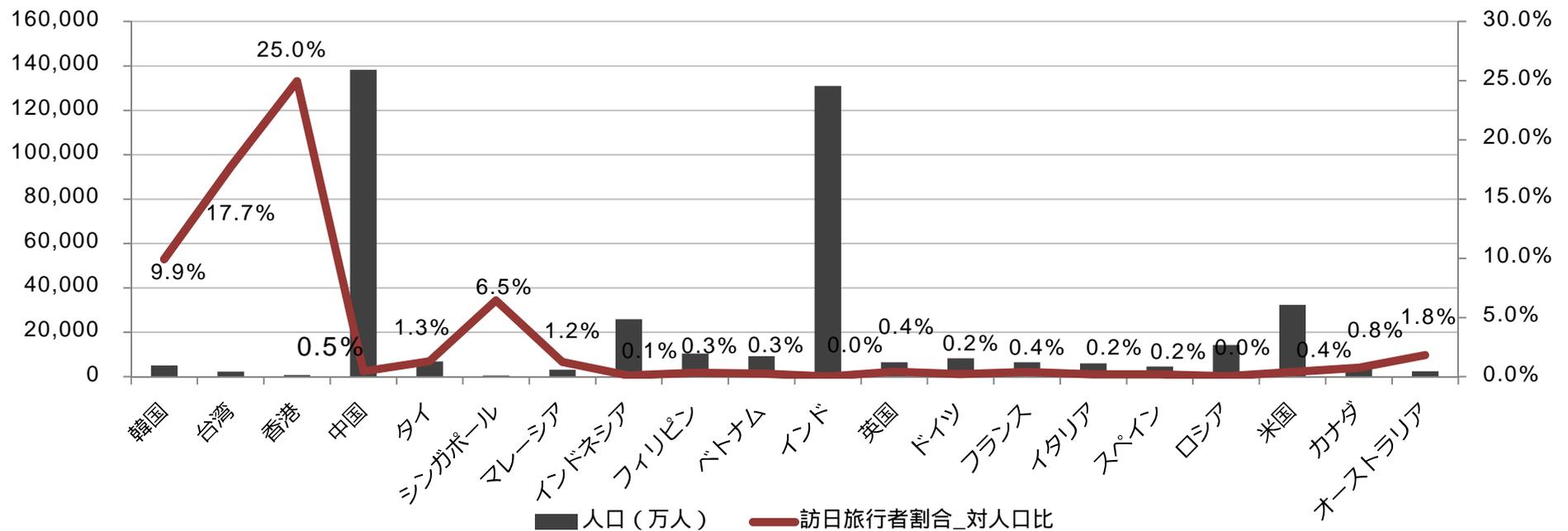
平成29年 訪日旅行における交通費消費額（億円）



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 人口と訪日旅行者割合（対人口比）

訪日旅行者の多い、韓国、台湾、香港の東アジアにおける訪日旅行者割合（対人口比）は高いものの、中国における訪日旅行者割合は0.5%と依然として低く、今後のさらなる成長が見込まれる。

人口（万人）



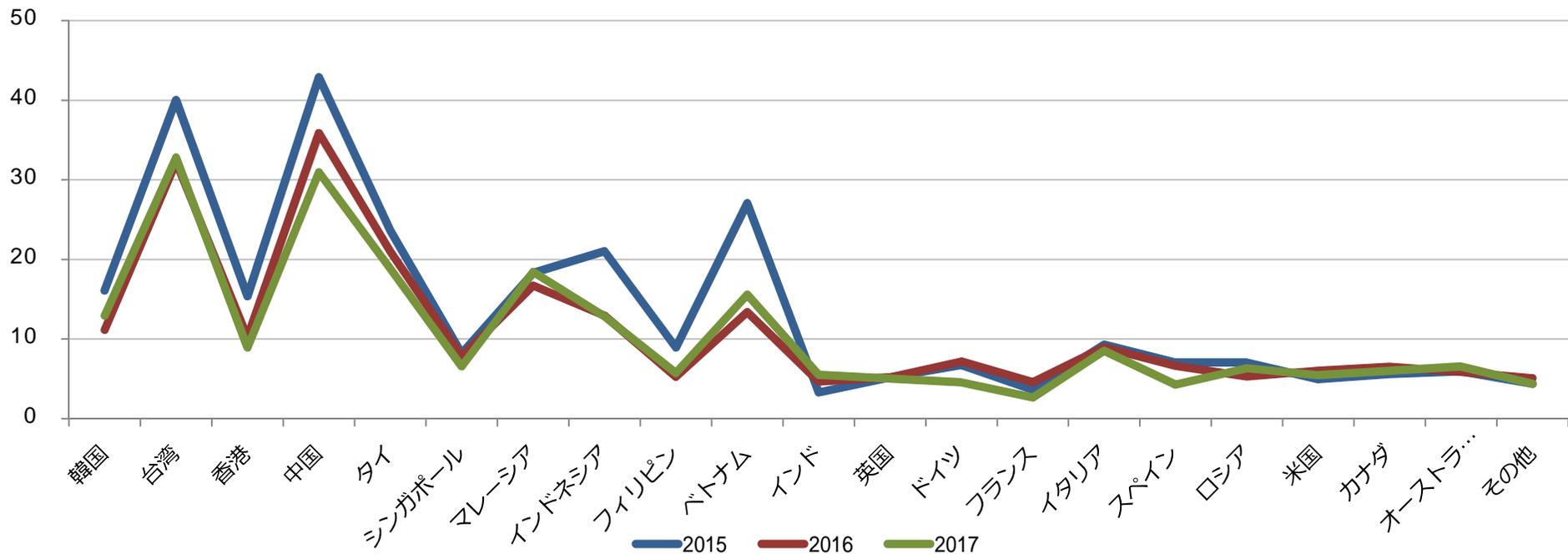
Copyright © 2018 FREEPLUS Inc. All Rights Reserved.

出典：日本政府観光局

## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 旅行手配方法

台湾、中国 における団体ツアー利用率は他国と比較して高いものの、年々、低下している。  
 一方で、欧米諸国における団体ツアー利用率は、5～10%を維持しており、団体比率が高いアジア諸国においても長期的には逡減していくと考えられる。

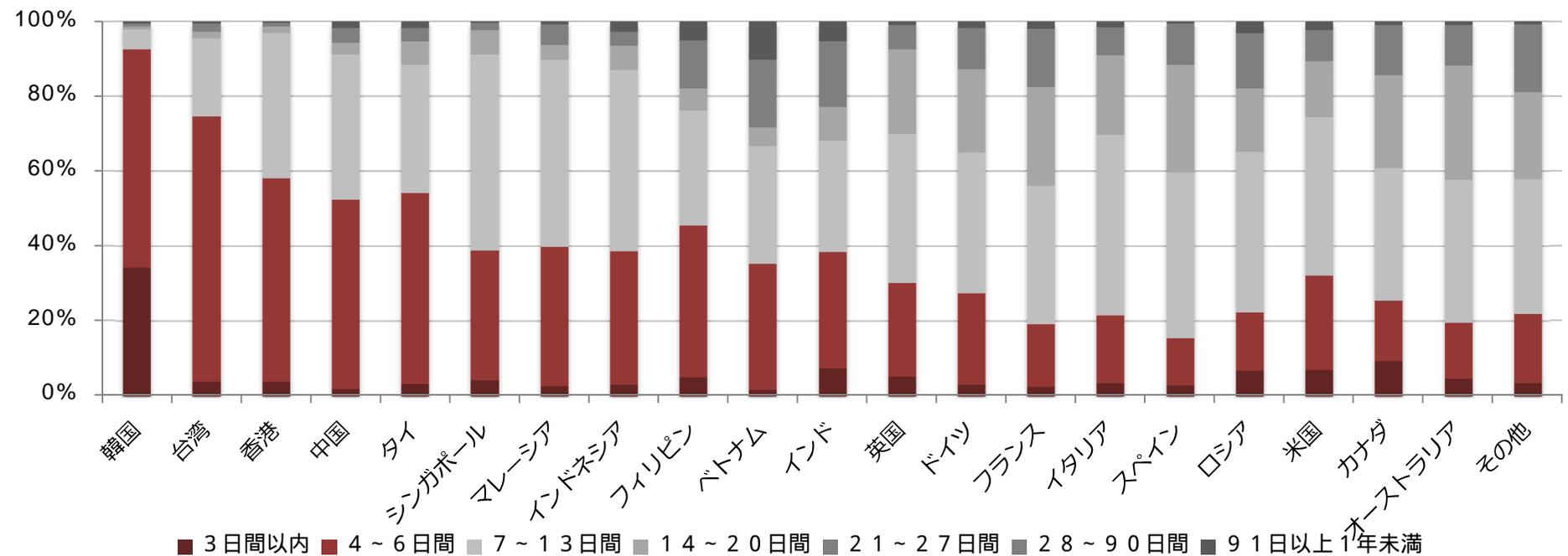
団体ツアー利用率 (%)



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 滞在日数

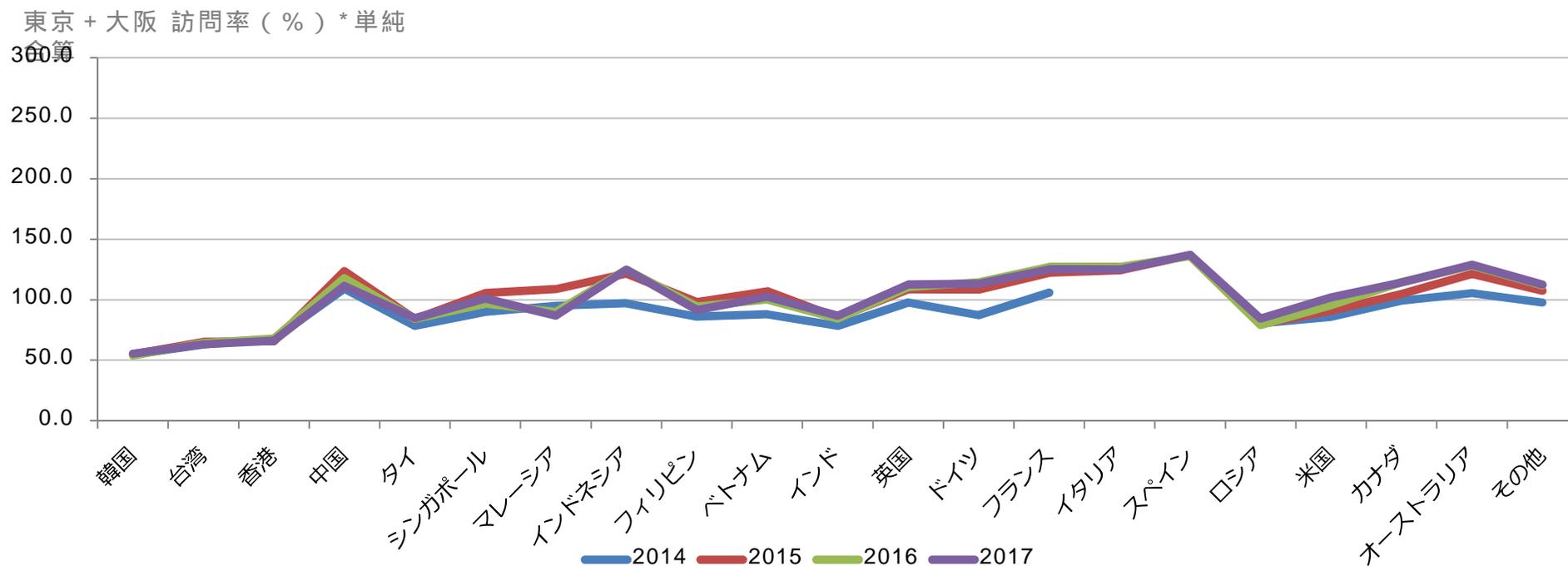
日本から遠方となる欧米は1週間以上の滞在が多数を占める一方で、特に東アジアにおいては1週間に満たない滞在者が多くを占めている。

滞在日数構成比 (%)



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 訪問エリア(1)東京および大阪

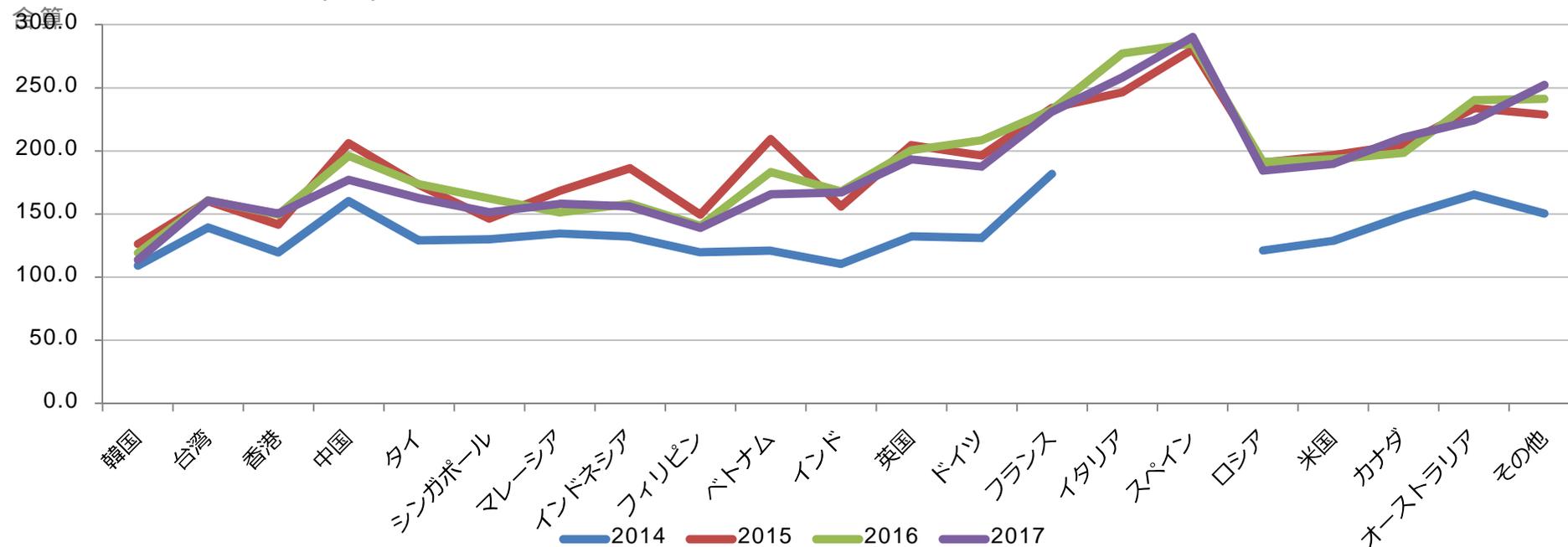
韓国、台湾、香港を除くほとんどの国においては、東京または大阪のどちらかは必ず訪れている一方、韓国、台湾、香港においては東京または大阪を訪れた人は6割前後という低い結果となっている。



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 訪問エリア(2)東京および大阪以外

欧米諸国はアジア諸国と比べ、地方を訪れる観光客は高い傾向にある。一方で、東アジアおよび東南アジアにおいても、徐々に地方への訪問割合が増加している。

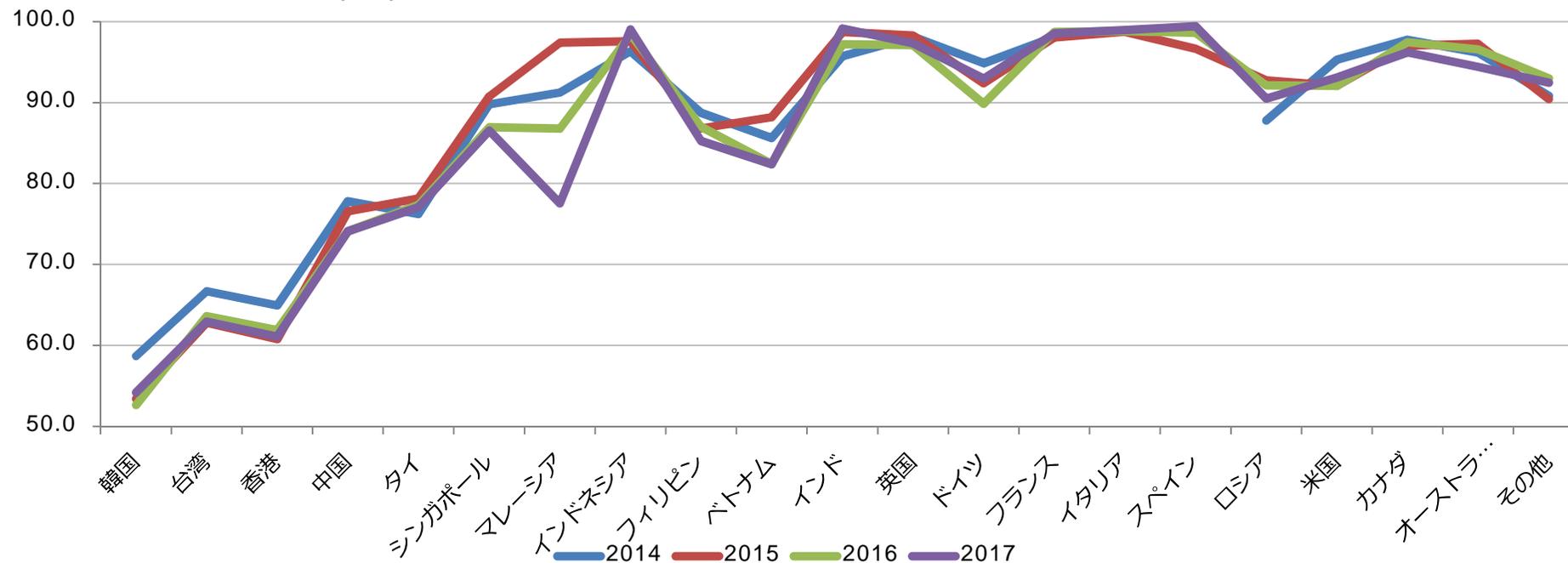
東京 + 大阪 以外 訪問率 (%) \* 単純



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 入国場所

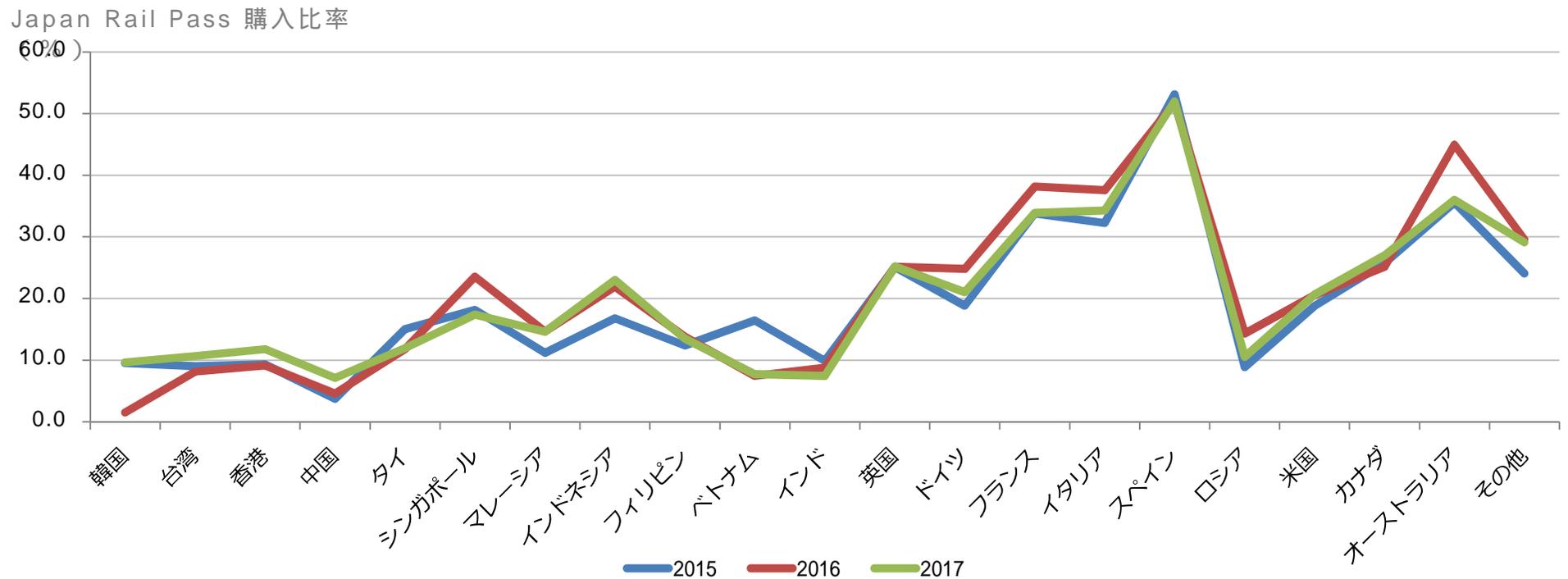
欧米からのほとんどの訪日客は、成田、羽田、関空からの入国となっている。  
一方、特に東アジアは成田、羽田、関空以外の空港等を利用して入国している。

成田 + 羽田 + 関空 利用率 (%)



## 訪日外国人旅行者の動向 \_ 新幹線利用状況

欧米諸国での利用は比較的高いものの、今後さらなる訪日観光客の増加が見込まれるアジア諸国における、JR Rail Passの利用は低い状態が続いている。



## これからの訪日トレンド

- アジアからの訪日観光客の増加
- 団体旅行から個人手配旅行へのシフト
- 主要都市から地方への流入

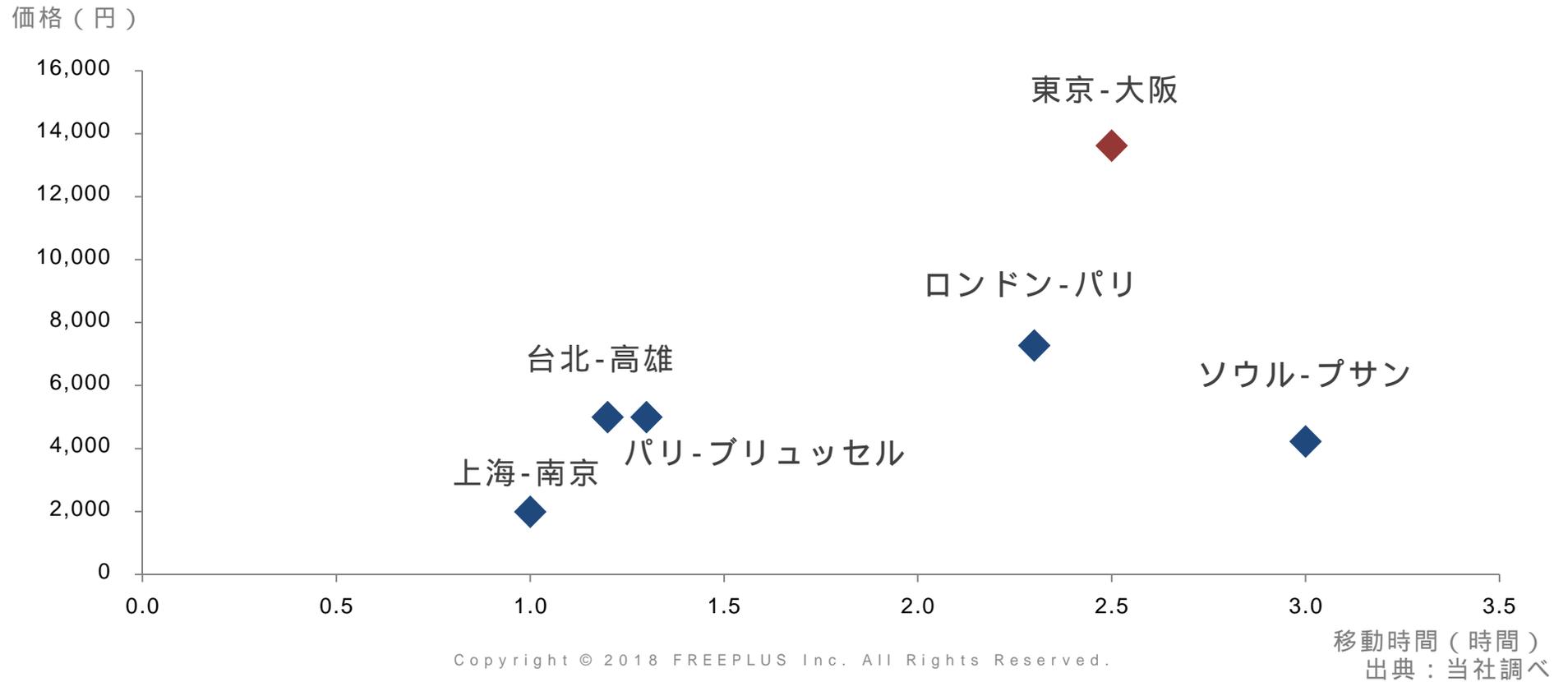


## 訪日トレンドに対応するための動き

- 移動手段の多様性の確保

## 世界の高速鉄道との比較

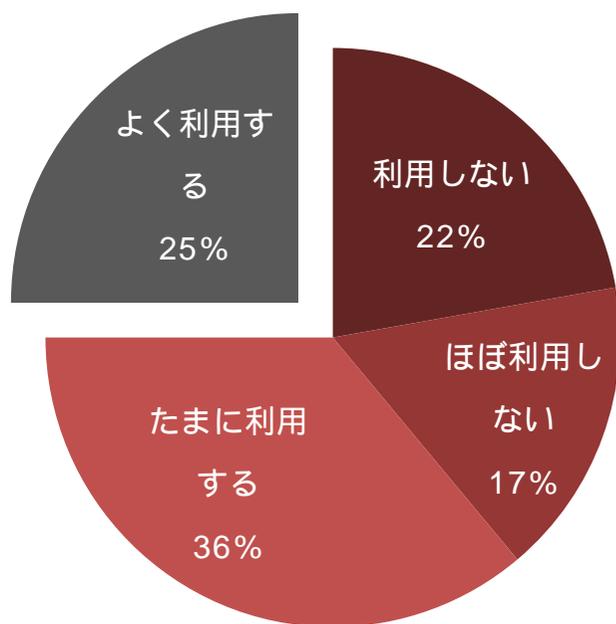
特に、東京-大阪間における新幹線においては他国の高速鉄道を比較して費用が高く、また柔軟な価格設定がされていない状況となっている。



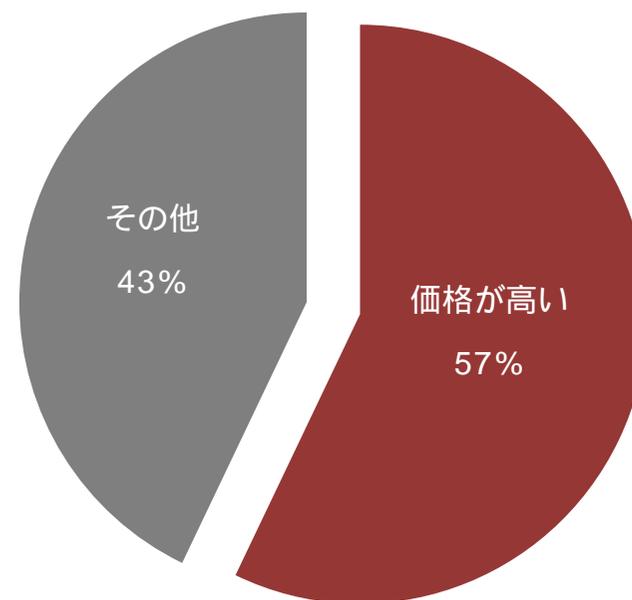
## 訪日旅行における新幹線の利用実態 \_ 課題

当社主要取引先72社に新幹線に関するヒアリングを実施。約4割が利用をしておらず、その内約6割が価格が高いためことが理由となっている。

新幹線の利用状況 (%)

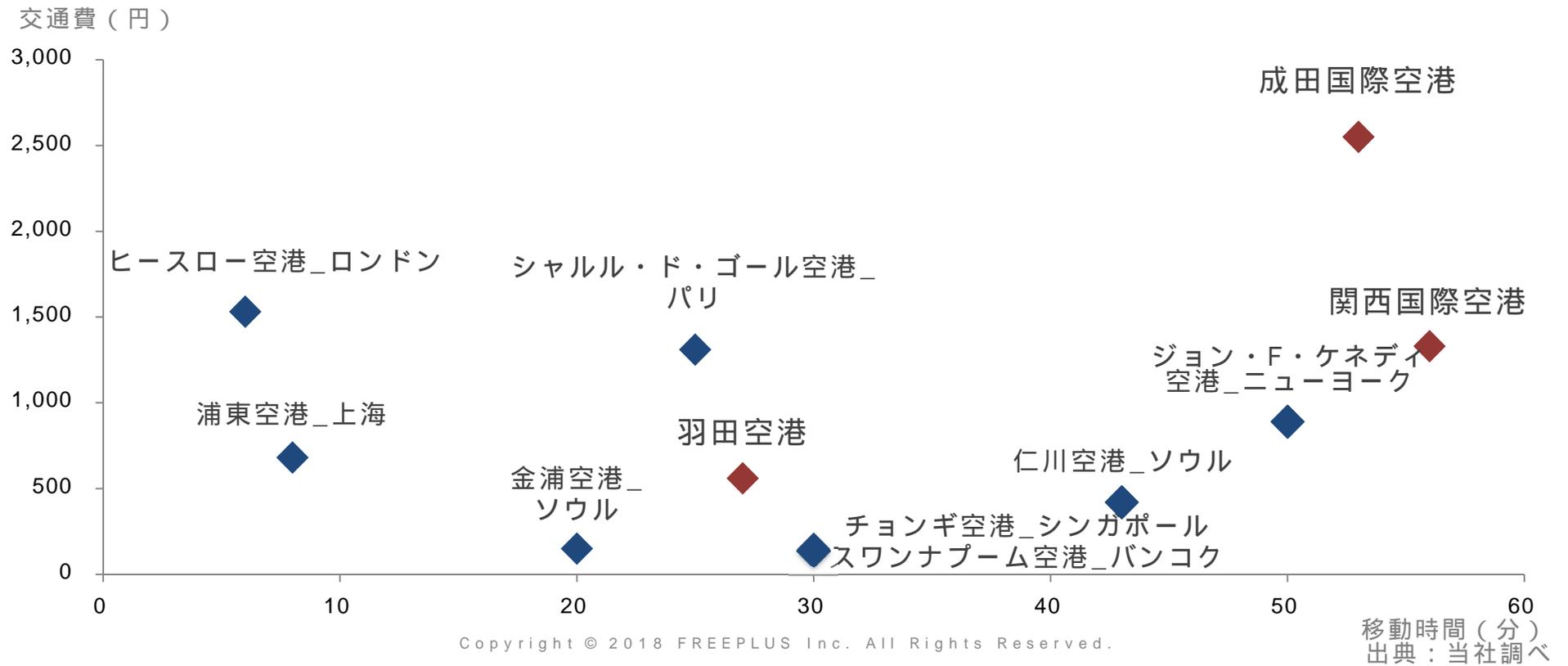


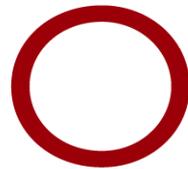
新幹線をより増やすための課題 (%)



## 空港から都心へのアクセス

日本の空の入り口である、成田国際空港および関西国際空港のアクセス（移動時間および移動コスト）は他国の主要空港を比較して便が良くない状態である。





FREEPLUS

この資料は、株式会社フリープラス（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、本資料には、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。